

KARATE WEEK 2026

監督会議資料

審判長 五十嵐 理
副審判長 西井 美夏 川田 喜子

【8月13日～15日 エアトリ杯全少大会】

1、全体の注意点

(1)運営面

- ① 選手が入場し整列した状態で開始式を行う。(最初の競技のみ)
選手はモニターの前、監督は控え席、審判員は所定の位置。
- ② アリーナ内待機エリアにはスポーツバック1つの持込みを可とする。
アリーナ内競技エリアにはタオル・ペットボトル・帯を入れる簡易な袋のみ持込み可とする。
- ③ IDカードは、チェックのみとし回収はしない。ただしドクターの記入のあるものは回収し
コート主任に渡す。コート主任は確認後選手に戻す。
- ④ 道着、帯、ゼッケン、安全具チェックについては、各コートにておこなう。
各コート主任は防具チェックの審判を指定する。その際に男子競技は男性審判員、女子競技は
女性審判員であることが望ましい。
特に、上着の長さは大腿部の4分の3まで、ゼッケンの縫い付け、マジックテープの強度を
チェックする。(特にメンホー・拳サポーター)
当該試合時にコートで組手2分、形1分ルールが適用となった選手の監督、コーチ、パーソ
ナルコーチはその試合につくことができない。※適用者は待機場所にて待機可
※空手着の長さについては、一回で違反と判断するのではなく、教育的な観点から指導し試合
出場を出来る限り妨げないように考慮し柔軟に対応をする。
- ⑤ コート主任がパネルに入る場合は、別の審判を必ずコート主任に任命する。
- ⑥ 正副審判長とコート主任は全体連絡を取るために携帯電話等を使用する場合がある。
- ⑦ 監督・コーチ・パーソナルコーチはアリーナ内での携帯電話の使用を禁止とする。
※緊急時における携帯電話の使用は観客席より見えないよう配慮すること。
- ⑧ 形決勝戦、組手決勝戦のパネルは正副審判長が編成する。それまでは各コートにて審判配置を
コート主任が責任を持って決める。(形・組手準決勝までは各コートにて審判編成を行う)
- ⑨ 競技での「正面に礼」はステージ側を向いて行う。(全小・パラ・大会共通事項)
後列6,7,8,9,10 コートは前列と逆となるが正面はステージ側とする。
- ⑩ 組手2分、形1分ルールが適用されていない選手に対しては、監督・コーチが途中から監督席
に付くことを可とする。
- ⑪ ビデオレビュー、プロテストは採用しない。
- ⑫ 形・組手ともに3位決定戦は行わない。

(2)異議申し立てについて

- ① 試合中の場合はすぐにおこなう。
 - ② 試合後の場合はコート主任へ申し立てる。
 - ③ 次の試合が始まった場合は異議申し立てを受け付けない。
- ※競技録画システムの映像を抗議内容等確認に使用することができる。
(各コートタブレット端末あり)

- ④ 各コートにタブレットが置いてあるので、問題が起こった場合はタブレットを使い該当する状況を確認する事。

(3) 服装

- ① 選手は競技規定に沿った清潔な白の空手着を着用すること。空手着メーカーについては指定をしない。
- ② 左胸に都道府県名を入れること。※シールタイプの胸ワッペンも使用できる。
空手着の袖や裾が長い場合は内側に折って縫い合わせてあるものは許可する。
- ③ 出場選手は参加章のワッペンを空手着の左肩口に縫い付けること。
- ④ 監督・コーチは全空連公式ポロシャツ（ワイン色）、パーソナルコーチは全空連公式ポロシャツ（ワイン色）の着用を推奨するが、同系色のポロシャツを着用することもできる。（ワンポイント可）黒・紺・グレーのスラックスを着用とする。女性はスラックスまたはスカートでもよい。
- ⑤ 審判員は全空連公式ポロシャツ（紺色）を着用する。サイズによる対応が難しい場合は、本年は市販品にて代替可。

2、形競技

(1) 運営面

- ① 選手の出入りについて
 - ・選手はコートの角（コーナー）に待機し、モニターに自分の名前と形名が表示されたらコートへ入り（斜め入り）演武を始める。（名前は呼ばれない）演武終了後、礼をしたのち、真っ直ぐに後ろに下がり判定を待つ。判定結果はシステムで確認する
 - ・モニターに表示された形名が申告した形名と異なる場合、選手または監督が挙手をしてその旨を審判員に伝え訂正すること。
モニターに表示された形名と異なる形を演武した場合は違反となる。
 - ・コート出入りの礼はしない。
- ② 礼について。（監督の促し可）演武開始前及び終了後の礼を忘れた場合は違反（反則）とする。
- ③ 形名を先に言い、その後に礼をした場合は減点となる。
- ④ ・準決勝戦・決勝戦の始まりは審判全員がテーブル前に立ち正面に礼、お互いに礼、その後一列でテーブルに向かう。※まわる時は左足固定の右足まわり
 - ・1回戦から準々決勝戦までは最終勝ち判定は係員がおこなう
 - ・準決勝戦時 J1 は得点での勝敗を確認し、その場で立ちフラッグで「赤（青）の勝ち」を宣する。発表直後に他のジャッジは立ち、J1 の「礼」に合わせて礼をし退場する。
 - ・決勝戦は2名の演武が終了し勝敗を確認した後に J1 は選手の間に移動する。スコアボードに得点が出た瞬間に手を挙げ「〇〇の勝ち！」と宣する。そのタイミングで他のジャッジは立ち、J1 の「礼！」に合わせて礼をする。その後退場する。

◇1回戦から決勝戦まで

- ① 得点による多数決・トーナメント方式で行う。
- ② 負けた選手から随時退場する。
- ③ 準決勝戦までは2名同時演武、決勝戦は1名ずつの演武とする。

(2) 競技について

- ① 違反について
明らかに反則となるもの・礼を忘れる・帯が床に落ちる・エントリーと違う形をする

- ① 各反則に関しては、J1 が責任を持って確認する。もし J1 が気づかなかった場合は他のジャッジが J1 に伝える。最終的にはコート主任の責任のもと判断する。

③形の指定

- ・ 1 回戦から準々決勝戦までは基本形とする。同じ形を繰り返し演武することができる。
- ・ 準決勝戦は 1 回戦から準々決勝戦までで使用していない基本形、もしくは第 1 指定形・第 2 指定形とする。
- ・ 決勝戦はそれまでに使用していない基本形・第 1 指定形・第 2 指定形とする。

3、組手競技

(1) 運営面

- ① 競技時間は 1 分 30 秒フルタイム 6 ポイント差とする。
- ② 競技規定(旧ルールブック黄色本 P68)※12 歳未満の禁止事項を適用
負けた選手から随時退場する。
- ③ 試合時の入退場について
スコアボードに名前が出たら、主審にゼッケンを見せてコート内に入る。名前のコールはなし。
試合前後は礼をし、選手同士の握手等はしない。
- ④ 試合が連続する場合
コーナーが変わる場合は 3 分、同じコーナーの場合は 1 分 30 秒のインターバルをとる。
- ⑤ 監督、コーチ、パーソナルコーチは必要以上の指示をしない。2 回主審が注意した場合、その試合は退場となる。※退場者は待機場所にて待機可
- ⑥ **選手はコートの外・内での 4 回の礼をしっかり行わせること。(礼の徹底)**

組手安全具

- ① 組手全種目に全空連検定品である小学生用拳サポーター(赤・青リバーシブル)、ニューメンホー (No. VII) 、ボディプロテクター、小学生用インステップガードとシンガード。(新型旧型共に可)
※ 安全具着装のない選手は出場できないので、十分注意すること。
- ② 小学 3～6 年生男子組手出場選手は必ずセーフティカップを着装すること。1、2 年生は所属の指導者(監督・コーチ)の判断に委ねる。

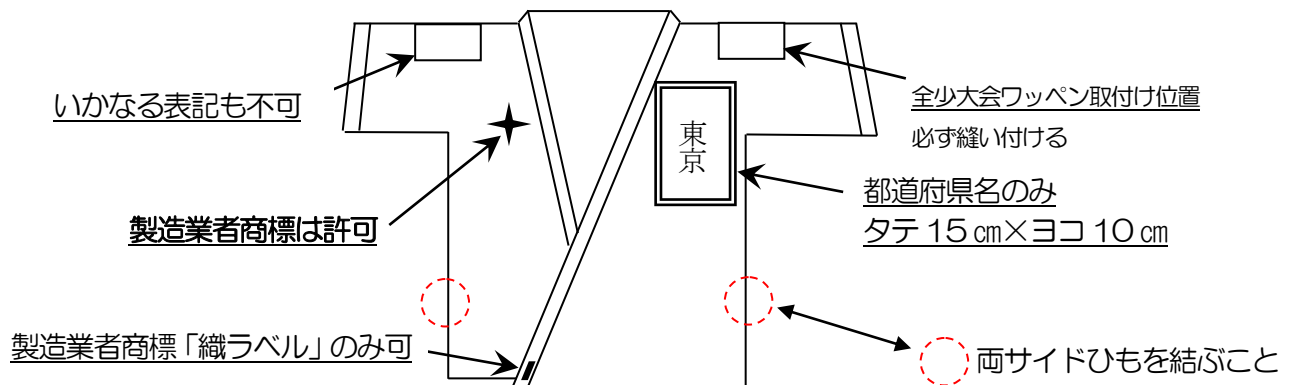
(2) 競技について

- ① ヤメの前後、終了ブザーの前後などにトラブル(異議申し立て)が出やすいので主審・監査・コート主任は注意を払う
- ② 10 カウントについて
ヤメをかける→ドクターを呼ぶ→カウント開始
主審はドクターを 1 度だけ呼ぶ、来ない場合はコート主任がドクターを呼ぶ
- ③ コート主任はルール違反等、コート運営に責任を持って対処する。

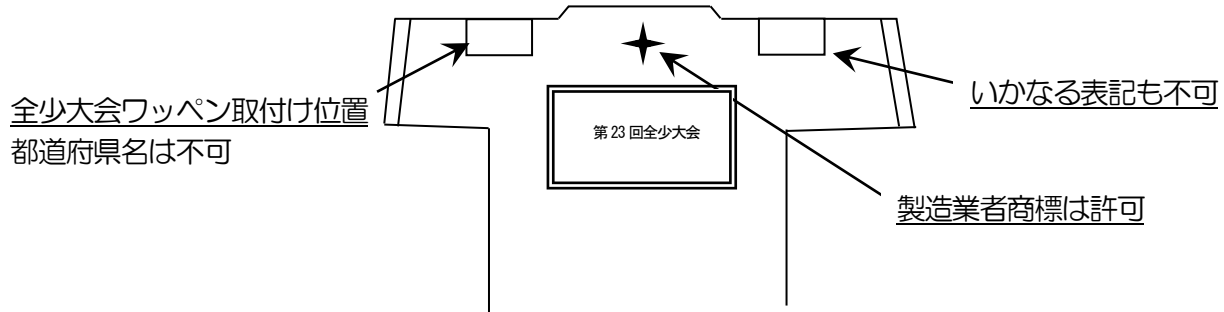
ワッペン・ゼッケン・胸マークについての注意事項

空手着の製造業者商標のラベルの表記については、製造業者が上衣の裾表側、ズボンの表側（左右どちらか）にはじめから付けられた「織ラベル」は可。今大会で指定された以外のワッペン、刺繍等は一切認めない。※各流派等のオリジナルラベルは認める。

表



裏



【空手着について】 氏名・ゼッケン・都道府県ワッペン・全少参加賞ワッペン・製造業者商標「織ラベル」以外の装飾は不可。ゼッケンはしっかりと縫い付けること。

【帯について】 刺繍可（刺繍糸の色は問わない）

【8月15日 パラ空手道競技大会】

本大会申し合わせ事項により、執り行うこととする。(大会実施要項参照)

《形競技》

- (1) トーナメント方式で1名ずつ演武し、得点による多数決で勝敗を決定する。ただし、必要に応じ、審判員が協議して決定する場合もある。
- (2) 3位決定戦は行わない。
- (3) 形は自由選択とする。なお、身体機能を考慮し、創意工夫によって形の内容を適宜改変することを認める(必ずしも規定の形通りでなくてよい)。
- (4) 初戦から決勝戦まで同じ形を繰り返し演武できる。
- (5) 補装具の装着を認める。

クラス	対 応
各クラス共通	・エントリーが1人の場合も、演武を行う。 ・演武が終了して得点が表示されたら、ジャッジ1が勝者として宣告する ・全空連形リストに無い形、創作形も認める。 ・規定上違反行為があった場合でも、基本的に違反とせず、得点により評価を下げる ・呼び出しは行わないので、電光表示板に氏名が表示されたら入場させる。
クラス1 肢体不自由 (上肢障がい)	
クラス2 肢体不自由 (上下肢・体幹障がい)	
クラス3 車椅子	
クラス4 視覚障がい	・全員アイマスクを着装する ※アイマスクは全空連で用意する。個人で用意した競技用マスクも使用可 ・呼び出しは行わないので、氏名が表示されたらコートエンドまで監督もしくは介助者が誘導する ・原則コート内への入場は選手のみで行う。ただし、誘導することも可。 ・演武終了位置で得点を待ち、チャイムが鳴ったら監督もしくは介助者が誘導し退場する ・1人または双方の演武が終了し、2人目の演武者の得点が決定したら、監督もしくは介助者がコートエンドまで誘導して、ジャッジ1の宣告を待つ ・宣告が終わったら選手は礼をし、監督もしくは介助者が誘導して退場する
クラス5 聴覚障がい	・本人が手話によって形名を申告し、形名は電光表示板に表示される(判定に考慮しない) ・形演武中の気合はなくてもよい(判定に考慮しない) ・得点が確定したチャイムが鳴ったら、ジャッジ1が身振りで知らせるので、コートエンドに下がって退場させる
クラス6 知的障がい	・状況に応じて、監督もしくは介助者またはジャッジ1が選手を誘導する

《組手競技》

- (1) 組手全種目の競技において、全空連承認拳サポーター、同メンホー(ミズノNo.VII)、ボディプロテクター、全空連またはWKF承認のインステップガードおよびシンガードを着装する。
- (2) 男子のみファウルカップ(車椅子使用の競技を除く)を着装すること。

- (3) 安全具及び帯(赤、青)は各自で用意し、安全具着装のない選手は出場できないこととする。
- (4) トーナメント方式で行う。
- (5) 年齢区分A～B (10～15歳)：1分30秒フルタイム
 年齢区分C～E (16～64歳)：2分フルタイム
- (6) 事前に全空連に確認し、許可を得た選手は補助具を着装して出場することができる。
- (7) 審判員は安全面等の理由から選手に触れ止めたり、手助けをしたりすることもある。

クラス	対 応
各クラス共通	・エントリーが1人で、参加選手が相手を連れて模擬試合を行った場合、審判団は通常どおりジャッジし勝者を宣告する ・模擬試合でなく打ち込み等を行う場合もあるので、その際はジャッジしない
クラス1 肢体不自由 (上肢障がい)	
クラス2 肢体不自由 (上下肢・体幹障がい)	
クラス3 車椅子	・空手マットは使用せず、アリーナフロアで行う ・コート境界線、開始線をラインテープで示す ・車椅子がぶつかり合い、転倒する恐れがあるときは「ヤメ」をかける
クラス4 視覚障がい	・試合開始線まで介助者が誘導する ・「ヤメ」の後、試合開始線まで介助者が誘導する ・競技終了後、介助者が選手を誘導して退場する
クラス5 聴覚障がい (人工内耳装着者は外して競技を行うこと)	・主審は「勝負始め」の合図を、発声しながらジェスチャー(手話)で行う ・主審が「ヤメ」をかけると赤ランプが点滅する ・点滅に気づかず競技を続行している場合は、選手の肩を叩くなどして知らせる ・「ヤメ」をかけたとき、選手の視界に主審の姿が入るように、立ち位置に配慮する(通常よりやや選手に近くなる)
クラス6 知的障がい	・エキサイトすることも想定されるため、「ヤメ」の号令があっても競技を続行している場合は、割って入るなどして競技を止める ・相手選手に怪我をさせる危険性を感じたら、早めに「ヤメ」をかける

《注意事項》

監督・コーチは全空連公式ポロシャツ(ワイン色)を着用する。ただし必要に応じて空手着を着用することができる。

介助者はこの限りではない。

監督・コーチ・介助者は、常にIDカードを携帯すること。